

EVグループ

EV COMPONENTS BUSINESS GROUP

電動化の変化を 成長機会に変え、 持続的な成長を実現します

常務執行役員
EVグループ長
林 朗

※EVグループの業績数値は産業電子モビリティグループに含まれます

グループの実績・成果

主要顧客における販売台数の減少などの影響を受け、売上高及び営業利益は前年度比で減収減益となりました。

一方で、価格改定やコスト低減、固定費抑制を通じた収益体質の改善に取り組むとともに、顧客ニーズに応じた製品提案力の強化を目的とした標準モデル・派生モデルの開発推進など、将来の事業拡大に向けた基盤整備に取り組みました。加えて、2025年度後半より複数の新規車種の生産を開始しており、今後はこれらの立ち上がり効果により、2026年度以降の売上拡大及び収益改善を見込んでいます。

【機会】

- 環境対応ニーズの高まりと各国の規制
- 自動車メーカー再編に伴う新たなサプライチェーンの構築
- 4WD電動車及び小型電動車ニーズの広がり
- 充電インフラへの投資など、普及加速に向けた取組みの進展

【リスク】

- 電動パワートレイン分野におけるコモディティ化の進展
- 自動車産業のグローバル競争におけるシェアバランスの変化
- アメリカ関税政策などの各国規制強化や地政学リスクによるサプライチェーンの混乱
- 当社製品を搭載した車種の需要減少

【強み】

- 電動車駆動ユニットのパイオニアとしての実績とQCDに差をつけるフレキシブルな生産ライン
- モーター及びインバーターのソフトを含めた制御技術と設計開発力
- 顧客仕様に対応するカスタマイズ開発と量産効果の両立

市場環境の見通し

足元の電動車市場は、BEVの成長鈍化や補助金政策の見直しなどにより変動が見られるものの、PHEV・HEVを含めた電動化の進展により、中長期的な拡大が見込まれています。一方で、中国OEMの台頭による価格競争の激化やOEM再編、サプライチェーンの見直しに向けた動向など、競争環境は大きく変化しています。また、各OEMにおいてはパワートレインのグループ内製化の動きも進展している一方で、電動化の進展に伴い開発の高度化・複雑化が進んでいることから、これらへの対応において外部パートナーの活用価値は引き続き高いと見込まれます。

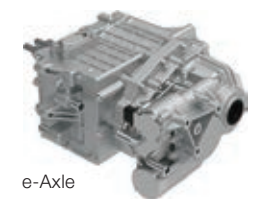
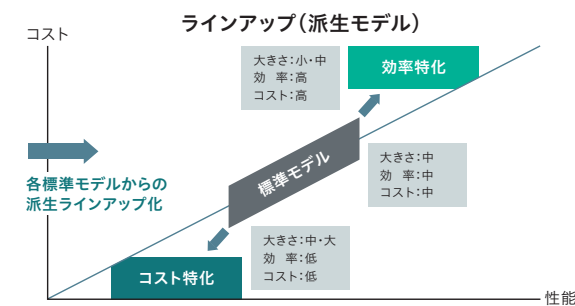
「中期経営計画2027」における進捗・今後の展望

成長戦略 1 製品

競争優位領域への注力と製品戦略の進化

マテリアリティ：カーボンニュートラル社会の実現

OEMにおける電動パワートレインの内製化が進展する中、当社は独立サプライヤとして競争優位を発揮できる領域への選択と集中を進めています。具体的には、高出力のリヤモーターや小型e-Axleなど、機能・コスト・開発効率の観点から、OEMにとって外部パートナーの活用余地が高い分野に注力し、付加価値の高い製品開発を推進しています。加えて、標準モデルを軸とした派生モデルの展開を進め、柔軟な顧客対応と開発効率の両立を目指します。更に、高付加価値製品の展開によるプロダクトミックスの改善や、グループ全体でのコスト低減推進により、収益性改善と競争優位性確保の両立を目指します。これらの取組みを通じて、電動化の進展による社会課題の解決に貢献するとともに、持続的な成長基盤の構築を進めていきます。



e-Axle

成長戦略 2 事業

顧客基盤の強化と新規領域への展開

マテリアリティ：カーボンニュートラル社会の実現

既存顧客との取引基盤を軸とした安定受注の確保と同時に、新規顧客の開拓を進めることで事業基盤の強化を図ります。既存顧客に対しては、提案型営業により設計初期段階から関与し、継続受注の確保と付加価値向上を推進します。新たな顧客層へは、製品提案力の強化を通じて、受注機会の拡大を図ります。

加えて、EV事業で培った量産技術や機電一体化技術を活用し、産業車両分野など周辺領域への展開を進めることで、新たな需要の取り込みを図ります。「既存顧客基盤の維持」、「新規顧客の獲得」、「EV技術の横展開」を通じて、変化する市場環境への対応策を講じながら、2026年度以降の新規車種の立ち上がりを契機とした売上拡大と収益改善を着実に推進していきます。

TOPICS

鉄基アモルファス合金を用いたモーターの基礎開発

モーターの高効率化を目的として、鉄基アモルファス合金を用いたステータコアの基礎開発に取り組みました。本材料は、従来の珪素鋼板に比べて高速回転に伴う鉄損を大幅に低減できる特性を有しており、モーターの効率性向上に寄与する次世代材料として期待されています。

開発では、アモルファス合金を適用した試作機を用いて性能評価を実施し、広範な運転領域における効率向上を確認しました。今後は、高速回転領域への適用も視野に入れ、次世代高効率モーターの実用化に向けた技術開発を進めることで、競争力の更なる強化につなげていきます。